

～阪神・淡路大震災 30年前の体験～

今号では、わたしたちが過去の大災害の教訓から何を学ぶかを今一度考えてみたいと思います。成瀬2丁目にお住いの山垣淑子さんから阪神・淡路大震災の体験記を寄稿していただきました。



1995年1月17日 午前5時46分 阪神・淡路大震災発生

30 年前の1月17日阪神・淡路大震災が発生し 6434 人の尊い命が失われました。生々しいその体験は、未だに感覚が体に残っています。

わたしは当時西宮市の甲子園球場直ぐの鉄筋4階建ての2階に住んでいました。5時46分、床が突き上げられるような衝撃を感じ目が覚めました。

亡くなられた方の8割の死因は建物の倒壊や家具類の転倒による圧死・窒息死

わが家は寝室に何も置いていなかったのですが、ベッドの足元の台に乗せたテレビがお腹の上に飛んできてケガをした人、筆筥が倒れて骨折した人など身近にけが人がたくさんいました。

当時は関西地方では地震が起きないと思い込んでいて家具の転倒防止などというものは一般的ではありませんでした。

その時わが家では

わが家のキッチンが電子レンジが 1m も飛び、破損し、炊飯器はひっくり返し、ポットのお湯は電気カーペットの上にごぼれてどちらも使用不能になりました。食器戸棚が倒れて 8 割ほどの食器が割れました。



食器戸棚を持ち上げた直後の我が家の惨状

室内で靴を履いてほうきで割れた食器を掃いた時の「ジャリジャリ」とした音はまだ耳に残っています。また、慌て



て行動し足に傷を負った人がたくさんいました。街中が埃臭く、ガスのにおいがし、余震に怯え、ガスや電気のない寒い日々を過ごしました。

体験から学んだ在宅避難のための備え

ワンセットになった値段の高い防災セットでなくとも 100 円ショップなどで安価に揃えることも出来ます。アルミの保温シートなどは家族の人数分があると良いです。助けを呼ぶホイッスルや懐中電灯などは各部屋、廊下などにも置くと良いです。食料品については、特別高い防災食を購入する必要はありません。ローリングストックという方法で、食べ終わる前に一袋追加で購入しておくだけで良いのです。例えば小麦粉があれば、あり合わせの野菜でお焼きやお好み焼き、余裕があればうどんを打つこともできます。好きなビン詰や缶詰、常備食を日常で消費し、なくなったら予備から使い、必ず予備を補充するということを繰り返すと賞味期限切れの心配も軽減します。

これだけは備えておきましょう

- 家具転倒防止の器具は種類豊富に売り出されています。簡易な L 字の金具で留めるだけでも、転倒までの時間が稼げて、避難することができます。ぜひ取り付け下さい。
- 寝室にスリッパや靴を用意すると飛散物による足のケガが防げます。
- 皆様の暖房器具を一度確認してください。灯油またはガスのファンヒーターは電源 ON の時に電気が必要ではないですか。灯油だけ、またはカセットガスボンベで作動する暖房などを用意するとより安心ですね。
- 水などを運ぶためのキャリーは頑丈なものが良いです。 ➡
- 小銭が大切です。買い物ができる環境が復活しても ATM は大混雑。少なくとも 2～3 万円の現金、特に小銭・硬貨の持ち合わせがなくて困ったことを思い出します。
- 携帯トイレは必需品です。下水道が破損すれば水は流せません。トイレの水洗は使用不能です。行政の指示で「紙詰まりのためトイレに紙を流してはいけない」という日々が続きました。



在宅避難と情報入手

災害がおきたら、すぐ避難施設へと思っていませんか。

避難施設開設は安全確認や種々手順がありすぐには開設されません。

まずは、わが家の状況を確認し、安全でしたら在宅避難をお勧めします。

30 年前は、すべては想定外でしたが、幸い自治会町内会のつながりがあり、発災直後は緊急連絡網で給水の場所・時間などが知らされました。

電気回復後はテレビのテロップに『〇〇公園に給水車が〇時に来ます』などと一日中流れました。

因みにわが家ではガスは 2～3 日後、水道が 1 週間～10 日後の回復だったと記憶しています。

顔の見えるお付き合いこそ大切 地域との繋がりはイザという時のためにも

情報はテレビやラジオから受けることが出来ましたが何よりありがたかったのは、近隣で顔が見えるお付き合いがありましたので、「お宅は小さな子がいるのでしょ、公園でこんなものが配られていたよ。」などと生の情報も大変助かりました。

現在は、種々情報が町田市から配信されますので、スマホなどのアプリを入れておくのも良いと思いますが、町内会、自治会、自主防災組織などと繋がりをもつことと近隣の顔の見えるお付き合いがとても大切だと実感しています。

- ① 発災後は慌てずに揺れがおさまってから、火の始末と電源ブレーカーを落としましょう。
- ② 家族から死傷者を出さないために事前の備えが肝心です。
- ③ 消火器・家庭用火災警報器・感震ブレーカーを備えましょう。
- ④ 転倒防止器具やガラスの飛散防止フィルムをつけましょう。
- ⑤ 寝室に靴や分厚い底の爪先が覆われたスリッパを用意しましょう。
- ⑥ 高い保存食よりも常日頃の食品をローリングストックして使いましょう。
- ⑦ 高価な備品よりも安価でも良いので各部屋に懐中電灯やホイッスル等を用意しましょう。
- ⑧ 防災備品は一か所にまとめるのではなく、押し入れや車庫などにも置いておきましょう。
- ⑨ 避難施設にすぐ行くよりも安全なら在宅避難で様子を見ましょう。
- ⑩ 近隣との「顔の見える付き合い・繋がり」を大切にしましょう。

【問い合わせ先】 本会報の内容についての疑問やご質問、ご意見などございましたら、下記メールアドレスまでご連絡ください。頂いた情報は今後の会報発行の参考にさせていただきます。

info-tamanaru-hinan@jcom.zaq.ne.jp